

活躍！スポーツの秋、実りの秋

2学期がスタートし、1月余りが経ちました。通勤途中の田んぼには、黄金色の稲穂が実り、頭を垂れている傍らの畦道に彼岸花が勢いよく咲いています。朝夕の気候とともに、秋の訪れを感じさせます。秋は、収穫の秋、実りの秋といわれます。西有家中の子どもたちも大きく成長し、みのり多き2学期にしてくれることを心から願っています。

西中の生徒たちは、部活動に、授業に順調な滑り出しができ、部活動においては、各種大会も開催され、生徒の活躍が、頑張りが目を見張ります。そんな中、

西有家中学校では、『挨拶・返事・後始末』の徹底に取り組んでいます。気持ち良い挨拶、心を込めた返事、後始末の習慣化を目指しています。ご家庭でもご協力をお願いします。

おめでとう！！

○市中総体ソフトテニス競技新人大会
団体戦

男子 優勝
(県大会出場)
女子 3位



個人戦

松野・松本ペア
優勝
城谷・瀬川ペア
3位 (2ペアともに県大会出場)

○陸上競技

・ジュニアオリンピック
ジャベリックスロー競技
本多 佑 優勝 (全国大会出場)

世界へ貢献！

ペットボトルキャップを集め、イオン有家店へもっていきました。17,383個で、17.4人にポリオワクチンが接種できるそうです。

一生懸命！ボランティア活動

・去る10月7日(土)に赤い羽根共同募金活動をクレアの前で、14名の本校生徒が行いました。社会福祉への理解や関心を高めること、ボランティア活動や社会連帯の精神を養うことを目的に、行いました。

社会福祉協議会の方々とともに活動しましたが、多くの地域の方々が募金に協力していただきました。



また、去る10月8日(日)に南有馬体育館にてほかにわ共和国の運動会が開催され、本校生徒がサポーターとして協力しました。運動会のお手伝いと同時に、入居されている方々と交流していました。一生懸命に活動していました。





<歯を食いしばって、必死に頑張る本校生徒>

今年度、10月3日(火)に駅伝競走が開催されました。男子は見事優勝し、11月9日に行われる県大会に出場します。女子は、10月6日に異例の再レースが行われ、4位でした。女子は、再レースの中、全区間で自己ベストタイムを出し、持てる力をすべて出し切りました。本当によく頑張っていました。

男子は、見事優勝しましたが、その裏には、走りたくても怪我のため、走ることができない生徒がいました。しかし、当日は、手術したばかりの状況でしたが、現地に行き、ぜひ応援したいという本人の願いもあり、車いすに乗って精一杯応援していました。その車いすの周りには、走り終えた選手やサポートしている控え選手が集まり、ともに力の限り、声援を送っていました。その姿を見たとき、仲間を思う気持ち、チームとしてのまとまりに触れ、目頭が熱くなりました。

今後の予定

10月

26日(木) 総合的な学習発表会
合唱コンクール

11月

1日(水)～9日(木) 3年三者面談

9日(木) 県駅伝大会

14日(火)～16日(木) 2年修学旅行

21日(火) 避難訓練

23日～28日 部活動テスト前中止

27日(月)～29日(水) 期末テスト

「子どもは親を手本にして育ちます。毎日の生活での親の姿こそが、子どもに最も影響力を持つのです。そのことを、詩『子は親の鏡』で表現したかったのです。」

『鑑と鏡』

鑑と鏡、どちらも「かがみ」と読む。「鏡」はそのま姿を映し出すもの、「鑑」も同じ意味を持つが、手本、模範という意味がある。

日本教育研究所長の森隆夫氏は親子の関係を次のように言われている。「親は子の鑑」であるべきだし「子は親の鏡」でもある。つまり、家庭教育は「模倣」で始まる。親が模範を心掛ければ、自然と子どもも模範になる。子どもは親が「言ったように」は育たず、「やったように」育つものだからである。海外にも同じような内容の有名な詩がある。それは、ロサンゼルス出身のドロシー・ロー・ノルト博士の詩である。その詩を紹介します。

「子は親の鏡」

子どもは、批判されて育つと人を責めることを学ぶ。子どもは、憎しみの中で育つと人と争うことを学ぶ。子どもは、恐怖の中で育つとオドオドした小心者になる。子どもは、馬鹿にされて育つと自分を表現できなくなる。子どもは、嫉妬の中で育つと人をねたむようになる。

子どもは、辛抱強さを見て育つと耐えることを学ぶ。子どもは正直さと公平さを見て育つと真実と正義を学ぶ。子どもは、励まされて育つと自信を持つようになる。子どもは、ほめられて育つと人に感謝するようになる。子どもは努力を認められて育つと目標を持つようになる。

子どもは、静かな落ち着いた中で育つと平和な心を持つようになる。子どもは、安心感を与えられて育つと自分や人を信じるようになる。子どもは、親しみに満ちた雰囲気の中で育つと生きることは楽しいことだと知る。子どもはどんな環境で育っていますか？

ドロシー博士は、この詩について左の吹き出しのように語られています。